

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201545		
法人名	有限会社プロケア		
事業所名	グループホームゆうあい		
所在地	札幌市北区篠路2条7丁目6-30		
自己評価作成日	令和3年6月15日	評価結果市町村受理日	令和3年9月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [https://www.kaijakensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kihon=true&JigyoVoCd=0170201545-00&ServiceCd=320](https://www.kaijakensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyoVoCd=0170201545-00&ServiceCd=320)

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自宅と変わらない環境作りをし、季節を感じられるような生活環境を作っている。  
職員・家族・利用者・三者の繋がりを重視した関係性作り。

職員間でのチームワークが強く、結束力も強いので新人ベテランに関係なくお互いが高められる仕事をしている。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和3年7月8日(令和2年度分)

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所はJR篠路駅に程近く、石狩街道から丘珠地区へ抜ける横新道沿いにあり、同法人の多様なサービスが集まる併設型の建物にある。通常では、事業所間の利用者の日常的な行き来があり、また、併設の利点を活かし、ADLに合わせたスマートなサービス変更も可能となっている。法人は早くから様々な高齢、障がいサービス事業を展開しており、特に職員が意欲をもって働ける環境作りに取り組んでいる。介護の姿勢は徹底した見守りのうえで、出来ないことを手伝い、利用者個々にとって自分らしい生活となる事をを目指し、支援している。さらなる地域に開かれた事業所としての活躍が期待される。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができる (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にやったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業者の理念を常に意識するとともに全員に共有し毎日達成できるように連携し実践している。	事業所理念を事務室や各ユニットに掲示し、意識付けしている。主に申し送りや会議の場で、理念への理解を深めており、日々の実践に活かせるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在コロナ過にあり地域の交流が中々出来ない状態ではありますが安全確保された時には交流再開できるよう構想している。	通例では、積極的に地域行事に参加したり、ホームの避難訓練などに協力をお願いする等、相互の協力関係作りに注力している。また、ボランティア等の来訪を受け入れ、地域とのふれあいを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウィルスのため交流自粛中今後の再開に向けての資料作成に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ過のため年6回リモート会議(書面会議)開催している。 会議資料送付しご感想ご意見頂き今後に活かしている。	通例では、家族代表や町内会、行政の参加を得ながら、定例で開催している。運営状況やヒヤリハット・事故等を明らかにし、書面開催においても、参会者から意見を求め、回答している。	
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故報告など各種報告や介護保険認定更新・区分変更等で関りがあり意見や情報を得ている。	市、地域包括支援センターから情報提供・アドバイスを受けている。通例では定例の運営状況報告や、地域高齢者や事業所の状況について、窓口に出向き、情報交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヵ月に1度身体拘束についての会議を開催し各階の状況を把握するとともに研修も行い理解している。 身体拘束0を目指してはいる。	身体拘束防止委員会を設置し、指針を基に3か月に1回開催している。委員会では、現状の検証を行い、職員間で共有している。不適切なケアと思われる事は、相互に注意し合えるよう職場環境にも配慮しながら、拘束も抑制もない介護に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	ミーティング等で高齢者虐待の具体例等を話し合い、虐待の外部勉強会があればスタッフに周知し防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、入居の問い合わせで入居受入れ話があり。 活用できるよう、学んではいる。		
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を得て図っている	入居時に説明を行いその都度疑問点や不安な点を説明し理解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族にはコロナ過である為面会規制はあるが意見や要望出された時は連絡ノートで周知している。	家族には来訪時に近況を伝えるとともに、積極的に意見・要望を聞き取っている。また、毎月個別のお便りを発行し、写真を交え生活の様子、体調面を伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを通じ意見を聞く機会を設け管理者を通じ代表に提案できる環境にあり個人的にも意見を言える。	月例のミーティングや申し送りの場で、職員との意見交換や提案を受け、運営に活かしている。また、個別の相談には管理者が随時対応する等、働きやすい環境作りにも配慮している。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている	労働環境を常に見直しをし働きやすい職場作りに尽力している。職員にも話しやすい環境作りしている。		
13		○職員を育てる取り組み  代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に積極的に参加することにより能力を向上していくとともに研修内容周知し全体的なレベルアップをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上  代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北区グループホーム連絡会に所属し勉強会等を通じて交流進めているが現在コロナ過により中止になっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時の資料を参考にしコミュニケーション取りながら傾聴し関係性を保つ。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が安心できるよう困りごと、要望は傾聴し努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時は環境に慣れるまでは日勤帯、夜勤帯連携を密にする事により支援の方法を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に出来ることは、タオルたたみ茶碗拭き等は生活をするうえで共に関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にも協力を、お願いできるような関係性を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・知人・友人の面会や、電話等で交流してもらっている。 また外出 外泊要望あれば希望にこたえている。	通例では、馴染みの場所や希望する場所への訪問は、職員の同行や家族の協力を得て想いに添える様、支援している。コロナ禍において、現在は電話連絡の頻度を上げ、お便りの内容充実に注力している。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	談話できる方などのテーブル配置をし良好な関係を保つよう努めている。利用者により居間で過ごしている事が多い。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話や訪ねてこられた時には様子等を聞いている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向や要望に沿うようにしている。イベント時には本人の好きなもの等を提供するようになっている。	個々の意向や希望の聞き取りに注力している。困難な場合は、家族の意見も参考にしながら本人本位の生活となるよう、申し送りや会議等の場で協議し、可能な限り応えられるよう努めている。	最終段階に関して、最後の時間をどこで過ごしたいのか等の具体的な思いを聞き取り・記録し、より本人本位の介護となるよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前のサービス内容を理解し今までの生活環境に近づけるように今必要なサービスを考えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ミーティングで一人一人把握し共有し対応している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方にについて、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人一人その時の状況を把握し意見する場面を設け作成している。 家族の意向も聞いている。	定例のカンファレンスでモニタリング結果を検証し、本人・家族の要望や医師・看護師の意見を考慮しながら、介護計画を作成している。また随時見直しを行い、現状に即した介護計画となるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者に関するケアや工夫を記録し職員で共有し情報交換し対応するよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々に柔軟な支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	敷地内に畑、花壇がある為散歩がてら楽しむことができている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全利用者が協力医の訪問診療を受けている。 かかりつけ医がある場合家族が同行し情報を得ている。	かかりつけ医は利用者と家族の意向で決定している。現在は、全利用者が協力医療機関からの訪問診療を受診しており、体調面・支援方法について職員間で共有している。また、定期的な健康管理を目的とし、法人内に看護師の配置がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働  介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回看護職員受診受けている。相談、情報等の共有があり支援を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は病院関係者より情報交換し退院時には受入れ準備の体制をとっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいく	早い段階より家族等との話し合いは行っている。 契約時には家族に事業所のできる範囲を説明している。	契約時に重度化に向けた指針や事業所の対応について、説明し、同意を得ている。重度化した場合や終末期には家族と話し合いながら、医療関係者とチームを組み支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生に備えて連絡等のフローチャートを作成しており職員対応できている。 応急手当も研修に参加している。		
35	13	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	敷地内事業所合同で年2回日中・夜間想定避難訓練 水平水害の訓練を行っている。	避難訓練は消防の協力を得ながら、年2回、自然災害想定も含め行っている。隣接する同グループの施設、地域町内会との協力体制も含め、毎回具体的な設定を行い、課題となることを洗い出し、改善に繋げている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるため日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのこれまでのライフスタイルや価値観を尊重し、個別ケアしている。	接遇が介護の基本であることを理解し、トイレ誘導や入浴時の対応を丁寧に行う等、尊厳を損なう事のないように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が希望・自己決定できる方が少ないが利用者によってできる方は働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	洗濯たたみや、茶碗拭き等お手伝いして過ごしたい方、身体動かしたい方は体操等で一日一日過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性であれば髭剃り、女性であれば髪をとかすなど身だしなみに気を配っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の誕生日やイベント行事は出前や好きなものを提供している。	通例では、職員は利用者と同じテーブルで同じ食事を摂り、お互いに会話を楽しみながら、食事を支援している。コロナ禍においては、感染防止に留意しながら、出来る範囲のお手伝いをお願いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々により食事量を調整している。 また水分摂取量も熱中症等の予防に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月2回歯科医の訪問診療を受けている。 口腔状態が良好に保つよう口腔ケアに努めている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助が必要な方のみ支援をしている。 自立の方も見守り等で対応するようにしている。	トイレでの自力排泄を基本として、職員間で一人ひとりのサインを共有、見逃さないように注意し、無理のない自然な排泄となるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	予防として、運動だったり便秘改善する食事、水分摂取を取り入れるよう取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否がある場合は時間帯変更したりしている。	ほぼ毎日お湯はりを行い、週に2回以上入浴出来るよう努めている。拒否がある場合、無理強いすることなく、時間帯や担当者を調整しながら、楽しい入浴の時となるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間睡眠できない方は、眠くなるまで起きててもらい夜間安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	協力医の医師のもと連携を取りながら用法、用量を相談し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所時趣味や特技を確認しレクレーションで楽しみを作るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全員での外出は利用者状態もあり難しい。ベランダで洗濯物干したりしている。通院、外泊、外出は家族の協力を得ている。	通例では個別に声掛けし、散歩や買い物等、行事ではないお出かけが出来るよう支援している。コロナ禍であるが、閉じこもることのないよう、感染防止に留意しながら、事業所のベランダスペースで焼肉を楽しむ等、気分転換や心身の状態維持に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所時に金銭の所持はお断りさせていただいている。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望によりやり取りできる体制はとっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は居間で過ごすことが多く誕生月には誕生日メッセージを壁紙に張ったりデコレーションして工夫をしている。	「しっかりと見守り、出来ないことをお手伝いする」という考え方から、居間を中心に事業所内には安全面への配慮がある。温、湿度は適切に保たれ、季節の飾り付け・作品を楽しみながら、落ち着いて生活出来るよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間で過ごすことが大半なので座るテーブルの配置を気の合う利用者同士など工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家族と相談しカレンダーや時計、置物など居心地よく過ごせるようにしている。	居室は、自宅のように落ち着つけるよう、家族の協力を得ながら、使い慣れた家具や思い出の品、写真等で飾られ、安心して過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全は確保しつつ、出来ないところを介助するよう徹底している。		